

## Ⅷ 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	メディア芸術	種目	映像
----	--------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

## 芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
制作団体所在地	〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
電話番号	050-3188-1549	FAX番号	
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
公演団体所在地	〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	土肥 悦子(代表理事)・諏訪 敦彦(専務理事) 藤岡 朝子(理事)・原 悟(理事) 林 知一(理事)	団体社員:土肥 悦子・諏訪 敦彦 従業員(事務局):浅見 孟 団体社員加入条件 社員総会での協議の上、加入	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	浅見孟
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土肥 悦子

制作団体沿革	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。2013年から2018年までの6年間で40回の映画に関するワークショップを行った。活動地域は、東京・横浜・川崎・福島・弘前・高崎・上田・豊田・奈良などに広がっている。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。</p>		
メディア教育における活動実績	別添(1)参照		
特別支援学校における公演実績	「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこなった		
参考資料の有無	A	申請する企画のチラシパンフレット等	有
		申請する企画のDVDまたはWEB公開資料	有
		※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=WX7_y60cZml">https://www.youtube.com/watch?v=WX7_y60cZml</a> <a href="https://www.kodomoeiga.com/2019">https://www.kodomoeiga.com/2019</a>
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>
	Aの提出が困難な場合	今回申請する企画に近い活動を記録したDVDまたはWEB公開資料	
		※公開資料有の場合URL	
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>

## メインプログラム・ワークショップの内容

【公演団体名

こども映画教室

】

対象	-	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	映画鑑賞+映画制作ワークショップ「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～			
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】			
		ワークショップ1回 → メインプログラム		
		ワークショップ2回 → メインプログラム		
	○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ		
		メインプログラム → ワークショップ2回		
		メインプログラム → ワークショップ1回		
	【全体の流れ】			
	別添(2)参照			
児童・生徒の 参加上限人数	ワークショップ	30～100名想定		
	メインプログラム	30～100名想定		

<p>メインプログラムの 主たる指導者</p>	<p>別紙「【C区分_赤いボール】出演者名簿」参照</p>		
<p>スタッフ人数 (1公演当たり)</p>	<p>上記指導者を含め、17名</p>	<p>機材等運搬方法</p>	<p>積載量： 1 t  車 長： 4,265 m  台 数： 2 台  ※運送会社も使用</p>
<p>企画のねらい</p>	<p>別添(3)参照</p>		

【公演団体名 **こども映画教室** 】

<p>実施にあたっての 会場条件および 学校側が必要な準備等</p>	<p>実施条件等確認書①をご確認ください。</p>	
<p>当日の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p> <p>※採択決定後、採択団体へ 学校側に提示する条件の確 認書の作成をお願いします。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【ワークショップ】</b></p> <p>前日(準備:1.5~3時間) 16:00 学校到着&amp;先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル</p> <p>1日目 8:45 ワークショップ1回目(70分) ※全体の流れ①~③ 9:55 休憩(10分) → メインプログラムへ</p> <p>2日目 12:00 学校到着&amp;機材設営&amp;試写&amp;打ち合わせ 13:00 ワークショップ2回目(50分) ※全体の流れ⑥~⑩ 13:50 終了 ~17:00 上映機材搬出</p>	<p style="text-align: center;"><b>【メインプログラム】</b></p> <p>1日目(ワークショップ1回目の後)</p> <p>10:05 メインプログラム開始(70分) ※全体の流れ④⑤ 11:15 メインプログラム終了</p> <p>13:50 1日目終了</p>
<p>特別支援学校での 実施における工夫点</p>	<p>特になし</p>	
<p>実施可能時期</p>	<p>実施可能時期スケジュール表をご確認ください。</p>	

リンク先	No.1	【公演団体名 とも映画教室 】
メディア教育における活動実績	2013年8月	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「とも映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)
	2014年6月	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催
	11月	〈ともと映画制作〉しんゆり映画祭シンポジウム招聘・登壇
	2015年1月	映画と教育についてのシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」主催(以降毎年主催)
	1月～3月	横浜市立新田小学校「とも映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業で)開催
	2月	「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古」にて「とも映画教室と創造的な場づくりについて」講義・登壇
	7月	「全国映連第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇
	10月	山形国際ドキュメンタリー映画祭にて「ともと映画」シンポジウム招聘・登壇
	2016年6～10月	お茶の水女子大学付属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として「とも映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ！ 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－実施 「とも映画教室シネクラブ@横浜シネマリン2019」実施 「とも映画教室CCAJ2019-2020」実施 独立映画鍋主催「映画教育のススメ～教育における映画の可能性～」に参加(中学生たち含む)
2020年	「とも映画教室2020×小布施短編映画祭」参加 「とよた★とも映画教室2020」実施・「アトリエとも映画教室2020」実施 「TIFFティーンズ映画教室2020」実施 「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施	
2021年	「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施 「TIFFティーンズ映画教室2021」実施	



リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
企画のねらい	<p><b>①主体的な観客を育てる</b></p>	<p>映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。</p>		
	<p><b>②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上</b></p>	<p>また、鑑賞のみではなく、映画制作を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックス撮影、手持ち撮影、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。</p>		
	<p><b>③名作鑑賞による地域交流</b></p>	<p>ワークショップ1回目は、ロシアの短編アニメーション作品『霧の中のハリネズミ』を鑑賞する。学校の体育館を真っ暗にして、みんなでカウントダウンし、体育館を映画館に変える。映画館が街中からなくなっている今、地域の学校の体育館で名作を鑑賞することは、地域の大人も含めて多くの人に体験してもらいたいことである。その鑑賞に『霧の中のハリネズミ』は最適であると考え。主人公のハリネズミが美しい白馬に魅せられ、勇気を出して霧の中に入っていく、そのなかで恐ろしい思いをしたり、誰かに助けってもらったりしながら、最後は仲良しのこぐまくんのところにとどろくというお話は、その映像の美しさ、主人公の心細さとともに、大人にも子どもの心にも響く作品だ。世界中で愛され、日本では絵本にもなっている。余白が多く、子どもたちが想像を膨らませることができる、とても豊かな映画だ。</p>		
	<p><b>④映画を深く味わう</b></p>	<p>鑑賞後のワークショップでは、『霧の中のハリネズミ』の内容を振り返り、主人公にとって「白馬」はどんな存在だったのか、主人公の性格はどんなものだと思うか、などを考えるゲームをしながら作品を深く味わう。最後に、主人公の気持ちを想像してもらおう。同じシーンでも見る人によって主人公の気持ちは違って見える。なぜなら主人公の気持ちがわかったのは、「あなた」がそう考えた、感じたからであることを伝える(主体的な観客)。</p>		
	<p><b>⑤映画ごっこではなく本当のクリエイションを目指す</b></p>	<p>メインプログラムでは、赤いボールに主人公を変え、生きていないボールを生き生きと映画の中で見せるにはどうしたらいいのかをこどもたちに考えてもらい、実際にそれをiPadで撮影する。いくつかのワークを事前にやることで、こどもたちは自主的にチーム内でコミュニケーションを図り始める。ボールの気持ちをどうしたら表現できるのか、仲間と悩み工夫し、協力し実際に手を動かしながら映画を内側から体験する。最後に自分たちで編集をして各チーム1分以内の映画に仕上げる。</p>		
	<p><b>⑥映画づくりには正解がないことを伝える</b></p>	<p>2日目に行なわれるワークショップ2回目では、メインプログラムで撮影したものを1本につなげて(こども映画教室のスタッフが前夜に編集する)、それを鑑賞する。他のチームの作品のボールの気持ちを想像して発言し、次に作った側もどんな気持ちを表現しようとしたか、どんな工夫をしたのかを発表する。これによりつくった側とみた側の違いがわかる。そこで答え合わせにならないように、どう受け取ってもいいのだということをしっかりと伝える。映画鑑賞も映画制作もどこにも正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。最後にプロの編集バージョンを見せることで、さまざまな編集の技を垣間見せる。</p>		
<p>プログラム全体を通して伝えていきたいのが、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。こどもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、自分たちの手で作り上げた作品を観てもらうことで“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、作りたいように作っていい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。</p>				

令和4年度「文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-」  
出演者名簿（予定）

C区分

企画名：「生きていないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

出演者		17名				
役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
1 映画監督（特別講師）	諏訪敦彦	萩生田宏治	五十嵐耕平	深田隆之	鶴岡慧子	※1
2 プロデューサー	土肥悦子					
3 映像制作チーフチームリーダー	今橋貴					
4 映像制作チーフチームリーダー	奥定正掌					
5 映像制作チーフチームリーダー	大川景子					
6 映像制作チーフチームリーダー	飯岡幸子					
7 映像制作チーフチームリーダー	西原孝至					
8 映像制作チーフチームリーダー	糠塚まりや					
9 映像制作チーフチームリーダー	小林和貴					
10 映像制作チーフチームリーダー	山本英					
11 映像制作チーフチームリーダー	藤田開					
12 メイキング動画撮影監督	太田達成					
13 メイキングスチール撮影監督	中村隆一					
14 テクニカルマネージャー	酒井貴史					
15 テクニカルマネージャー	御子柴和郎					
16 テクニカルマネージャー	山本大輔					
17 アシスタントプロデューサー	浅見孟					

※1 巡回スケジュールにより1名を派遣



文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業―  
令和3年度

# 子ども映画教室

一般社団法人

## 映画

映画鑑賞 + ワークショップ公演

「生きてないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに演技指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

実施日程	実施校名	地元主催者
2021年6月30日(水)	神津島村立神津中学校	東京都教育委員会
2021年7月1日(木)	足立区立花保小学校	東京都教育委員会
2022年1月17日(月)	いすみ市立浪花小学校	千葉県教育委員会
2022年1月18日(火)	市原市立市東第一小学校	千葉県教育委員会

知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～  
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良く交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。  
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

### 子ども映画教室とは…

2004年に始まった「子ども映画教室」がめざすのは「子どもと映画のアカリミライ」。多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くの子どもに届けます。

子ども映画教室が大事にしていることは2つ。  
1. 大人は手出し口出ししないこと。 2. 一流の映画人と出会うこと。  
大人が子どもを信じ自主性を尊重することで子どもには自尊心が生まれ、真剣な大人との出会いは子どもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。

「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちがこの活動に共感し特別講師を引き受けています。



一般社団法人 子ども映画教室

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイイツ2F  
phone & fax : 050-3188-1549

- <http://www.kodomoeiga.com>
- [info.kodomoeiga@gmail.com](mailto:info.kodomoeiga@gmail.com)
- <https://www.facebook.com/kodomoeiga/>



えいが かんしんしょう

映画鑑賞+ワークショップ

「生きてないものが動く!」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう!

### プログラム紹介

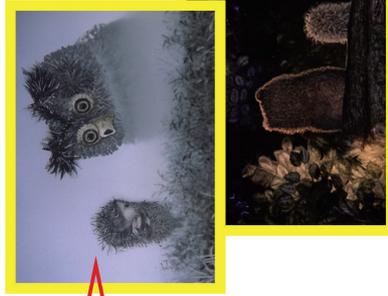
※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。



※本公演ではiPadを使用しています

## ①映画を“観る”

切り絵を用いたアニメーションで知られるロシアのアニメーション作家、ユーリ・ノルジュテイン。ノルジュテインは、“アート・アニメーションの神様”として宮崎駿監督や高畑勲監督、世界中のアニメーション作家から尊敬される存在でもあります。今上映する『霧の中のハリネズミ』は、ノルジュテインの代表作のひとつであり、今もなお世界中で愛されている名作アニメーションです。



©2016 F.S.U.E. C&P SMF

### おはなし

夕暮れの野原をハリネズミのヨージックが急ぎ足で歩いている。友だちの子グマの家でお茶を飲みながら星を数えるために。いつしか周囲には夕霧が立ちのぼり、ヨージックはそこで様々な体験をする…

## ②映画について“おしゃべりする”

鑑賞した『霧の中のハリネズミ』について、どんな動物やものが出ていた?どんな音があった?など、みんなでおしゃべりしながら振り返り、映画について感じたことや考えたことを言葉にします。

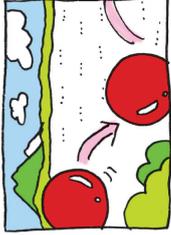


## ③映画を自分たちで“撮る”

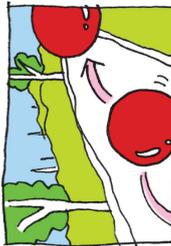
チームに分かれ、赤いボールを主人公にした短い映画をiPadで撮影します。まず映画に出てくる赤いボールの気持ちを考えて、それをヒントにストーリーや撮り方を考えます。

ルールは赤いボールはかならずフレームの外から入ってきて、最後はフレームから出ていきます。おもしろそうな場所を見つけて撮ってみましょう。

1.1 いめ

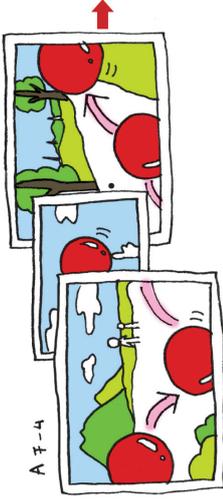


おしゃべり



## ④自分たちの映画を“観る”

それぞれのチームが撮った映画を1本ずつながげてみると?!なんとAチームの映画のおわりにフレームの外に飛びだしたボールがBチームの映画の中にぽんとはいつてきて、次にはCチームの映画の中にもまた赤いボールがみんなの知っている場所を冒険していくように見えます!



### 特別講師プロフィール

特別講師プロフィール



特別講師プロフィール

ディレクター、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる『不完全なふたり』(日仏合作)がロカルノ国際映画祭において審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後もフランス参加、フランス人二バス映画『パリ・ジュテーム』(2006年)への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』(2009年)がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。2018年、8年ぶりの監督作品『ライオンの電話』で第70回ベルリン国際映画祭国際審査員特別賞、第71回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

### ワークショップスタッフ

特別講師 譚訪 敦彦 (映画監督)

プロデューサー 土肥 樹子

アシスタント ディレクター

深田 隆之 岡定 正孝 今橋 貴

大川 真子 小林 和貴 太田 達成

藤塚 まりや 五十嵐 耕平 中井 聖満

藤田 叶 御子 崇和 藤田 開

山本 大輔 中村 隆一

テクニカルマネージャー

酒井 真史

事務局

浅見 孟

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K156	分野	メディア芸術	種目	映像	ブロック	F/G/H/I/J	区分	C区分
公演団体名	[C区分]こども映画教室				制作団体名	一般社団法人こども映画教室			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談	
控室について	必要数*	1室	条件	機材や貴重品を一時保管するため施錠ができる、かつスタッフ打ち合わせができる教室(または会議室)が望ましいです。				可	
搬入について	来校する車両の大きさと台数*			バン	2台	(最大)		不可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細								
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			全長5380mm×全幅1880×全高2285mm				可	
	搬入車両の横づけの要否*			要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離*			問わない				可	
	搬入経路の最低条件			・なるべく屋根があること ・可能な限り台車が使用できること				可	
	理由			音響、上映機材など、重量のある精密機器を搬入するため					
	設置階の制限*			問わない				可	
WSIについて	搬入間口について 単位:メートル	幅	指定なし		高さ	指定なし		可	
	参加可能人数	100名迄(多少の増員は応相談)						可	
	学年の指定の有無*	あり	指定学年*	小学校3年生以上				可	
	所要時間の目安 単位:分	WS①70分 WS②50分(②は人数が多ければ相談ください)						可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調査」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数			応相談(30名～100名を想定) ※保護者・地域の皆さんも鑑賞可				可	
	舞台設置場所*			ステージ上・フロアの両方				可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	4.5m	奥行	1.5m	高さ	3.7m	可	
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保*			不要				可
		舞台袖スペースの条件*			機材や備品を一時保管するスペースとして使用				可
		緞帳*	要		パトン*	不要		可	
	遮光(暗幕等)の要否*			要	理由	プロジェクターで映像を投影するため		不可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*		不要		※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。		可	
		ピアノの事前調律*		不要				可	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況*		格納されていれば可				可	
公演に必要な電源容量			6A	※主幹電源の必要容量			可		
その他特記事項							応相談		
iPadの設定などにインターネットを接続希望です。必ずしも体育館でインターネットを使用できる必要はありませんが、応募時にwi-fiの設置等インターネットの接続環境をお知らせください。							可		

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	指定なし	高さ	指定なし
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

